

■議員定数に対する意見

市議会議員 松岡 唯史

私は議員定数の削減について反対であり、現状維持すべきと考えます。理由としては、次のとおりです。

① 定数削減すると、市民の声を届けることや行政運営のチェック機能が弱まる

議員は、市民と市政をつなぐ重要な担い手で「行政に市民の声を届けること」そして「市長の行政運営をチェックする機能」が求められます。しかし、議員定数を削減すると、市民の皆さまのさまざまな意見や要望を市政へ届けるという機能がこれまでよりも弱まるのは明らかなです。各議員にはさまざまな地域や各界各層の支持者がおみえになり、その声を代弁されていることと推察しますが、その多様な意見、特に少数の意見が市政に反映されにくくなります。

また、各議員にはそれぞれ得意な分野や能力などがあり、その能力を生かしたさまざまな目により市政がチェックされていますが、定数削減すると、そうしたチェック機能も弱まるのではないのでしょうか。

②議員一人当たりの活動量増加

現在、議会改革特に議会の広報広聴機能を強めようとしています。このような状況で、議員一人ひとりの負担が増え、今後さらに活動量は多くなると推測されます。そもそも、広報広聴活動の幅を広げる目的は、市民の皆さまが市議会への関心を持ち、参画していただくことに繋げるためのものであると私は考えています。定数削減が、これら議会改革の制約となってはいけないと考えます。

また、委員会活動を今後さらに活発に行っていくべきだと改めて感じています。特に、常任委員会において、市政の課題などを議論し、行政へ政策提言などを積極的に行っていくことも今後必要です。

このように、議会活動をこれまで以上に広く深くしていくのであれば、議員定数は少なくとも現状維持が妥当だと考えます。

最後に

たしかに、議員一人当たりの人口比で見れば、県内では海津市は少ない方であり、議員の数が多くの方だといえます。しかし、議員一人当たりの人口比が海津市と同程度若しくは海津市より少ない市もいくつかあります。また私は、海津市の議員定数について考えた場合、議員一人当たりの人口比の問題より、定数削減による影響（デメリット）や今後の議員活動・議会活動（一人当たりの活動量）を考え、定数削減をすべきではないと判断しました。各議員が今後の活動をさらに充実させ、市民の皆さまの要望実現や海津市の発展に寄与することができれば、現状の議員定数維持に対する市民の皆さまのご理解も得られるのではないかと考えます。